

岩手県体育協会 平成30年度新規強化事業 いわてスポーツアカデミー支援事業 経過報告

次代のオリンピック選手を目指し、ジュニア層(小学生～中学2年生)の選手育成・競技力向上のため、平成30年度新規事業として「いわてスポーツアカデミー支援事業」が始まり、1年が経過しようとしています。

☆2018 いわてスポーツアカデミー支援事業 指定名簿

過去10年間でオリンピック選手を輩出(またはメダリスト育成事業対象)競技の5団体が指定を受け、事業が展開されています。

T-No	競技名	競技種目	強化人数	育成拠点	過去10年のオリンピック選手・メダリスト 育成事業指定実績
1	陸上競技	競歩	4名	岩手県営運動公園、岩手大学	高橋英輝 【2016リオデジャネイロ】
2	スケート	スピード	31名	みちのくココ・コーラ ボトリングリンク (岩手県営スケート場)	熊谷萌 【メダリスト育成指定】
3	ホッケー	ホッケー	116名	岩手町ホッケー場 (いこいの村)	早野(小沢)みさき 【2008北京オリンピック】 田中泉樹 【2012ロンドンオリンピック】
4	スキー	ジャンプ	2名	八幡平市矢神 サマージャンプ場	永井秀昭(コンバインド) 【2014ソチ、2018平昌オリンピック】 小林潤志郎・小林陵侖 【2018平昌冬季オリンピック】
5	山岳	スポーツクライミング	5名	岩手県営運動公園	伊藤ふたば 【メダリスト育成指定】

今回は、陸上競技「競歩」の事業を紹介します。

陸上競技では競歩が指定を受け、種目の特性を考慮し、対象を県内の中学2年生(陸上競技経験不問)とし、発掘・育成事業を展開。事業は以下の4段階で構成されています。

- 【ステージ1】 応募者を対象に競歩講習会を実施(2回程度)
- 【ステージ2】 ステージ1の参加者を対象に、育成選手選考のためのトライアウト(1000m程度の走力と競歩の動き等で総合評価)を実施し若干名を選考
- 【ステージ3】 育成選手の練習会や合宿を実施(3000m競歩で18分切りを目指す)
- 【ステージ4】 育成選手の中から選抜して「全日本競歩能美大会」等へ参加

ステージ2のトライアウトの結果、ステージ3に進んだ選手は4名。月2回の練習会を経て、全国大会出場を目標にし、基本練習を重要視しながら、今後の競技継続で競技力を更に伸ばせるよう、トレーニングを実施しています。ステージ4にはこちらが設けた設定タイムをクリアした選手だけが進める事としていましたが、4名全員が3月17日に開催される「全日本能美競歩大会」の出場権を得ることができました。また、練習の状況から12月には1名の選手が「長崎競歩大会」の中学生の部に参加したところ、地元選手に周回差をつけ、見事優勝する事が出来ました。その際、日本代表コーチからフォームについて直々にお褒めの言葉をいただいたことは本人にとって大きな自信になったようです。

残念ながら、今年度の育成選手は来年度の事業対象外となってしまいますが、育成選手達が事業終了後も自主的に練習を継続し、高校進学後も競技を続けて息の長い選手になってくれる事を切に思うと同時に、協会側もしっかりとフォローできる体制を整えていきたいと考えています。



2018長崎陸協競歩大会 優勝
和泉陽大(松園中)

事業指定は、オリンピック実績によるものですが、育成強化についてはどの競技にも共通の課題があります。是非、競技種目を超えて連携し、ジュニア層の育成強化を進めていきましょう。